

指定管理者による公の施設の管理運営状況（令和6年度分）

施設名	県立こども病院
施設所管課	病院局経営管理課
指定管理者	社会福祉法人恩賜財団済生会支部茨城県済生会
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 施設の概要

施設所在地	水戸市双葉台3丁目3番地の1
施設の概要	(1) 敷地面積 39,495.39 m² (2) 建物 17,484.245 m² ア 本館 地下1階、地上3階 8,236.915 m²（車庫棟、R I 室を含む） （増築分） 3階 5,169.92 m²（ポンプ小屋ゴミ置き場を含む） 3階 497.60 m² 計 13,904.435 イ リニアック棟 1階（別棟） 486.82 m² ウ 医師公舎 2棟 8戸 460.00 m² エ 看護宿舎 1棟 36室 1,289.10 m² オ 周産期センター 1階（別棟） 738.36 m² カ ファミリーハウス 2階 4室 161.39 m² 2階 6室 211.62 m² キ 附属棟 2階（別棟） 232.52 m² (3) 診療科目 小児内科、新生児内科、小児血液腫瘍内科、小児循環器内科、小児神経心療内科、小児内分泌・代謝内科、小児感染症内科、小児腎臓内科、小児アレルギー科、小児救急科、小児外科、新生児外科、小児泌尿器科、小児脳神経外科、心臓血管外科、小児形成外科、麻酔科、放射線科、小児整形外科 (4) 病床数 許可病床 115床 稼働病床 115床 (5) 病棟編成 NICU 18床（新生児） GCU 18床（ ） 2A病棟 32床（無菌室、小児科・小児外科混合） 2B病棟 35床（小児科・小児外科混合） PICU 6床 HCU 6床
業務内容	「将来を担うこどもの生命をまもり、心身ともに健やかに育てる。」という基本理念のもとに、本県における小児医療の中核的な役割を担うためのこども専門病院として、低出生体重児等の危急新生児をはじめ、重篤・難治の疾患等に対する高度医療を行う。

2 職員の状況

常勤職員：318人	非常勤職員：110人	合計：428人
-----------	------------	---------

3 収支状況

令和6年度

（単位：円）

収 入		支 出	
県交付金	585,782,563	人件費（給与等）	3,150,633,511
利用料収入	4,832,236,318	光熱水費	94,788,501

自主事業収入等		租税公課等	
その他（利息等）	105,609,538	自主事業費	
		その他（事務費・修繕費等）	2,277,094,528
収入合計	5,523,628,419	支出合計	5,522,516,540

4 利用状況

	令和6年度実績	令和5年度実績	令和4年度実績
①年間利用日数 (日)	365	366	365
②年間利用者数 (人)	81,650	78,086	77,734
③利用料収入(円) (指定管理者収受額)	4,832,236,318	4,368,523,277	4,642,672,601

5 サービス向上に向けた取組み

- ・地域連携・支援体制に関して、令和3年4月に再開した日立総合病院地域周産期母子医療センターのために常勤の小児科専攻医等3名を派遣したほか、新生児科、小児外科の専門医を派遣するなどの支援を行っている。また、ひたちなか総合病院にも常勤の小児科専攻医1名を半年間派遣したほか、水戸市休日夜間診療所などに医師の診療応援派遣を行うなど県央・県北地域の小児医療の充実に努めている。
- ・診療機能の充実強化に関して、医師のみならず各分野の医療スタッフを確保し、病院全体の診療体制の強化に努めている。近年は感染症による救急患者受入れ件数が高水準であり、令和5年度は6,643件と当院開院以来、最も多くなった年であった。令和6年度は前年度よりも当該患者数は減少したものの引き続き高水準であり、6,166件と開院以来2番目の受入れ件数である。特にRSウイルス感染症やインフルエンザ等の流行で救急患者が増加傾向であるため、令和5年度から感染症外来の診察室増設や夜間・休日の看護師を1名増員するなど、救急外来の診療体制を強化して対応している。
- ・医療人材の教育・研修機能の強化に関して、本県の小児医療を担う医師を養成するため、小児科専門医研修プログラムの充実に努め、積極的に専攻医を受け入れている。当院ホームページにおける専攻医募集サイトの充実や、東京ビックサイトで行われた研修医や医学生が一同に会する病院合同説明会「レジナビ Fair」に参加して当院の魅力の発信を行っている。そのほか、臨床研修医や医学生を対象とした「超音波勉強会」を実施するなど、専攻医を確保するための施策を積極的に展開している。また、専門医や認定看護師、特定行為看護師研修など各種専門の資格取得や、研修会・学会等への参加を積極的に支援している。

6 利用者満足度調査の結果及び対応状況

○実施方法

外来患者家族、及び入院患者家族にアンケートを実施した。回答数：外来 299 人、入院 49 人

○調査結果

①職員・スタッフの応対

満足 78.7%、まあまあ満足 15.8%、普通 4.9%、少し不満 0.6%、不満 0.0%

②診察の内容（説明）

満足 79.3%、まあまあ満足 16.1%、普通 4.0%、少し不満 0.6%、不満 0.0%

③施設の清潔さ

満足 54.0%、まあまあ満足 36.1%、普通 7.6%、少し不満 2.0%、不満 0.3%

④施設全体

満足 82.2%、まあまあ満足 12.1%、普通 5.5%、少し不満 0.3%、不満 0.0%

○利用者からの意見等

【良い点】

- ・NICU でまだ子どもが赤ちゃんであったが、クリスマスにはプレゼントを届けてくれて嬉しかった。
- ・医師の説明が分かりやすい。
- ・丁寧にわかりやすくアドバイスをくれる。とても安心させてもらっている。
- ・以前と比べて事務受付が親切で雰囲気も良くいい感じである。

【悪い点】

- ・診察までの待ち時間がすごく長い時があったので改善して欲しい。
- ・入院の説明時にあいさつがなく、どうなのかと思った。
- ・問診票のタブレット入力が面倒。(外来)
- ・入院の際に看護師によって対応が全然違ったので戸惑った。

【要 望】

- ・トイレが古いのが気になる。赤ちゃん連れには不便。
- ・病棟ごとに付添人のシャワールームやコインランドリーがあると良い。

○対応状況

- ・調査結果の概要は病院ホームページで公表する。
- ・利用者からの意見や要望については、施設内の改修工事やワーキンググループによる院内環境改善の取組に反映させている。

7 管理運営状況の評価

評価項目	事業計画 (管理指標)	実績 (管理指標に対するコメント)	自己 評価	所管課 評価
維持管理	設備保守点検は、事業計画等に照らし適切か。	保守点検業者に業務を委託し、適切に管理している。	A	A
	整理整頓・清掃が行き届いているか。 (建物・植栽等)	適切に行っている。	B	B
	破損箇所の修繕は適切か。	協定書に従い、指定管理者で対応すべきものは、適切に修繕している。	A	A
施設運営	使用日数、使用時間等は守られているか。	適切な運営を行っている。	A	A
	予約・利用許可等、利用者への対応は平等・公正に行われているか。	「将来を担うこどもの生命を守り、心身ともに健やかに育てる。」という基本的な理念のもと、患者に対しては平等・公正に対応している。	B	B

	創意工夫により、魅力ある自主事業の実施等、施設の利用拡大やサービスの向上が図られているか。	・小児在宅医療に関わる人材の育成支援として、訪問看護ステーションや特別支援学校等を対象に技術向上のための研修会やシンポジウムを実施している。 ・小児科専門研修プログラムにおいて、小児超音波勉強会を実施するなど、教育研修機能を充実させている。 ・筑波大学の学術指導活動により患者サービスの向上を図っている。 ・環境美化委員会を中心に、植栽等の療養環境の整備にも取り組んでいる。	A	A
	利用者の要望を把握し、運営に反映させ、満足度を高めているか。	院内に意見箱を設け、患者の要望等を随時把握し、適切に対応している。	A	A
運営体制	職員は適切に配置されているか。	予定した人員配置を行っている。	B	B
	要望、苦情等への対応は迅速かつ適切か。県へ報告しているか。	対応は迅速・適切に行っており、県（病院局）への報告も適切に行っている。	B	B
	事故・災害等、緊急時に備えた体制は確保されているか。	各病棟の災害対策グループにより、緊急時に備え、被災時のシミュレーションを定期的実施している。また、原子力災害避難計画も令和6年3月に策定済である。	A	A
	県、その他関係機関との連携は取れているか。	県、市町村、筑波大学、水戸済生会総合病院などの医療機関との連携を取っている。	A	A
利用状況	利用者数の状況は、計画を達成できているか。	概ね達成できている。（計画に対し入院 94.1% 外来 89.0%）	B	B
	施設の稼働率は、事業計画に照らして適当な水準にあるか。	概ね達成できている。（計画に対し病床稼働率 94.1%）	B	B
収支状況	収支計画が適正に執行されているか。	適正に執行されている。	B	B
	経費削減に向けた取組みがされているか。	・SPD（院内物流管理システム）を導入し、医療消耗品等の余剰在庫の削減に努めている。 ・済生会の共同購入品を採用することで材料費の削減を図っている。 ・県立中央病院と重油の共同購入を実施している。	A	A
【総合評価】・・・各評価項目及び施設の性格・特殊性を考慮した総合的な評価 ・県立の小児専門病院として、一般医療機関では対応が困難な周産期と小児専門医療、救急医療を24時間365日提供するなど診療体制の充実に努めている。 ・令和6年度もRSウイルス感染症やインフルエンザの流行で救急患者が多く、令和5年度に強化した体制を維持している。 ・地域連携・支援体制に関しても日立総合病院に年間を通して常勤医師3名を派遣し、ひたちなか総合病院にも常勤医師1名を半年間派遣したほか、水戸市休日夜間診療所などに診療応援するなど、				

県央・県北地域の小児医療に貢献している。

- ・本県の小児科医を養成するため、HP における専攻医募集サイトを充実させたり、新たに「レジナビ Fair」にブース出展したり、超音波勉強会を開催するなど、病院の魅力を発信して専攻医の確保に努め、5名の専攻医（令和7年4月採用）を確保した。

- ※
- ・実績（管理指標に対するコメント）欄については、指定管理者が記入する。
 - ・総合評価欄については、所管課が記入する。
 - ・自己評価、所管課評価欄について

評価	評価基準
A	事業計画を上回る成果があったもの
B	事業計画どおりの成果があったもの
C	事業計画を下回っており、改善努力が必要なもの